

③ プロセスシートを活用した授業検討会

※藤沢市教育文化センターの提案を基に構成

ア 特徴

授業者は、授業のねらいや願いと、児童生徒とのかかわりにおいて起きた事実とのお互いの考えを確かめたり、自分自身の言葉で内面を語ったりしながら、授業改善の気づきを参観者とともに得ることができる検討会

イ 授業参観の視点


参観者は、授業中に起きた事実と気になったことをプロセスシートに記入しながら、授業参観をする。

当初のプラン	事実（先生）	事実（児童生徒）	気になったこと
授業者があらかじめ記入しておく。	時系列に沿って、授業の中で自分が見ていたことを記入する。 ■児童生徒の発言・つぶやき・表情・行動等 □教師の発問・指示・行動等		疑問に思ったこと、学びの背景にある意図、感想などを記入する。
前時の3けたの数のひき算の計算の仕方を想起する。	(記入例) □練習問題2問。出します。 □「741 - 490 =」 □書いてみましょう。 □繰り下がりどうだった。	(記入例) ■全員：えー ■A子：先生、何問なの。 ■5,6名：あった。 ■B子：1回あった。	(記入例) ○なぜ「えー」なのか。 ○板書しないのは、教師の言葉に集中させるためか。 ※重点化して記入してよい。

ウ 検討会の過程 <約90分の時間設定>

授業者の内面を明らかにするため、時系列で授業中の事実を丁寧に再構築していき、学びの姿を語り合う。

	授業者	司会者（プロンプター）	参観者
導入	1 授業を終えての印象を述べる。 <5分>	1 授業者に寄り添い 、授業者の言葉に耳を傾け、知りたい・分かりたいことについて質問していく。	1 授業者の「願い」を共有する。 【Q】授業者の願いを共有するために、どんなことに気を付ければよいのか？
	2 本時のねらいに即した提案や工夫、自分の願いや思い等を述べる。 <5分>	2 疑問に思ったことを質問し、振り返りを支援する。	2 授業者の言葉を尊重し、 授業者の願い や思いをさらに理解する。
展開	3 授業の中で自分が見ていたこと・考えていたこと・感じたこと・起きていたことなどを振り返って、 自分の言葉 で語る。	3 参観者が見取ったことを、解釈や意味付けを加えずに授業者に返して語ってもらう。	3 授業で感じた疑問・気になったこと・知りたいことを、児童生徒の学びの事実を基に、素朴に出し合う。

開	<p>① 自分の授業の意味付け</p> <p>② 授業の再構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事実 ・ 見取りと判断 ・ 把握できなかった事実 ・ 再現された事実と自分の思いのずれ <p>4 自ら実感を伴った授業改善の手がかりに気付く。 ＜70分＞</p>	 <p>4 授業者の気付かなかった視点にも焦点を当てる。</p>	<p>4 語りの促進者として授業中に起きた事実を出し合い、授業の再構築を支援する。</p>
まとめ	<p>5 指導助言（必要に応じて）</p> <p>6 振り返りを行う前後での授業の印象の違い、次時の授業改善や今後の授業について語る。＜10分＞</p>	<p>5 授業者の思いを踏まえ、授業改善を示す助言。</p> <p>6 授業者・参観者の互いのズレを手がかりに授業を振り返ることで、参観者は授業から学ぶ。</p>	

エ その他

○司会者は、指導案作成から授業者を支援することが望ましい。

○授業者の気づきを促す**参観者の働きかけ**（発言）の例

「〇〇のような子供たちの反応がありました、先生はどのように受け止めていましたか。」

「机間指導中、先生はどのようなことを見取っていたのですか。」

先生自身が気づき、修正したいと思ったことは何ですか。」

「〇〇君は、指示を聞いた後すぐに、ワークシートに記入し始めた。」



<Q & A>

【Q】：授業者の願いを共有するために、どんなことに気を付ければよいのか？

{A}：① 授業者のねらいや願い、授業づくりへの思いを、参観者は共感的に受け止める姿勢を持つ。

② 「こうあるべきだ」などの一般論や「あの時こうしていればよかった」といった確かめようのない発言はしない。基本的には児童生徒の学びの姿を通して語り合う。